

第5節 前向きな見通しをもって諦めずにやり遂げる

幼児期は、自分の力を十分に発揮し、友達と協力したり励まし合ったりする経験により諦めずに最後までやり遂げようとする力が育つ。幼稚園においても園生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わい、いろいろな遊びを楽しみながら物事をやり遂げようとする気持ちをもてるような環境作りが望まれる。

また、教師との信頼関係に支えられて自分自身の生活を確立していくことが人と関わる基礎となることを考慮し、幼児が自ら周囲に働き掛けることにより多様な感情を体験したり、試行錯誤しながら諦めずにやり遂げることの達成感や、前向きな見通しをもって自分の力でやることの充実感を味わったりすることができるよう、幼児の行動を見守りながら適切な援助を行うことが大切である。

ここでは、3年保育5歳児の実践事例を述べる。運動会の練習に繰り返し取り組み、やり遂げた達成感を味わう姿（事例1「僕も走りたい」事例2「僕も走りたい」）を取り上げる。

（関連資料：「埼玉県幼稚園教育課程指導・評価資料」（平成31年3月埼玉県教育委員会）P56～P59）

1 幼児の実態（3年保育5歳児クラス 30名）

進級してひと月も経つと、クラスの新しい友達との関係にも慣れ、一人一人の幼児が自己を発揮し活発に遊ぶ姿が見られるようになってきた。気の合う友達とやり取りをしながら遊ぶ姿も多くなり、遊びを十分に味わい、満足感をもって生活を楽しめているようだ。一方で自分の思いを通そうとしてけんかになることも増えてきた。教師は、活発に遊べるようになってきたことで起きるトラブルに対して、自分たちで解決できるように導いたり、相手の気持ちがわかるように助言したりしている。

2学期になると、戸外遊びも活発になり、友達と誘い合って鬼ごっこやドッジボール、リレーなど、ルールを守りながら繰り返し遊ぶ姿が見られるようになってきた。運動会でのクラス対抗のリレー競技も視野に入れて練習する幼児たちも多くなってきている。しかし、中には勝敗にこだわり、リレーに意欲をもてない幼児もいる。

2 指導のねらい

- ・目的に向かって友達と力を合せて取組、やり遂げた充実感を味わう。（事例1）
- ・友達と教え合ったり、競い合ったりする中で、友達一人一人の良さに気付く。

（事例2）

3 指導を行う際に主に考慮する「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

- ・身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中でしなければならないことを自覚し、自分の力でやるために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。

[幼稚園教育要領 第1章第2の3(2)「自立心」

- ・友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。

[幼稚園教育要領 第1章 第2の3 (3)「協同性」]

- ・身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気づき、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを感じながら、自分の考えをより良いものにするようになる。

[幼稚園教育要領 第1章 第2の3 (6)「思考力の芽生え」]

4 内容

- ・運動会に行うリレーの練習に、繰り返し取り組む。(事例1)
- ・目標に向かって友達と力を合わせて、工夫してリレーの練習に取り組む。(事例2)

5 環境構成のポイント (事例1・事例2)

- ・幼児たちがリレーを楽しめるようトラックロープを張り手に持ちやすくしたバトンを準備し、自由に使用できるような置き場所を設置する。
- ・自分なりの目当てに向かって繰り返し取り組んでいる姿を十分に認め、友達同士でも励ましたり、認めたりできるような雰囲気作りを心掛ける。

※安全への配慮事項

- ・幼児が活動するトラックのロープの状態や危険物の有無等を、日々の点検において確認し、適切に整備するよう日々の安全点検を確実に実施する。

6 活動の展開と評価

(1) 事例1 僕も走りたい。(9月中旬)

運動会に向けて、年長組の3クラス対抗リレーの練習が始まっている。クラスを赤チームと白チームの2つに分けて、6チームで競争している。すでに4回対戦しているが、2チーム共いつも4位から6位の間を行ったり来たりしている。足の速いA児は、今度こそは1位を取りたいと思って、クラスの皆に声をかけた。

A児「今度は、絶対1位になるよう、皆で練習しようよ。」

B児「無理だよ。また、今日もビリだよ。練習なんかするだけ、疲れちゃうよ。」

少し離れたところで2人の話を聞いていたC児は、B児が走って行ってしまってから、A児の傍に寄ってきて、

C児「A君、僕のために1位になれなくてごめんね。僕ももっと速く走りたいんだ。どうしたらいいかな。」

A児「うーん、そうだなあ。僕は、2学期になってから家から園まで走っているよ。少し速くなった気がするけど。園でも毎日練習しようか。」

C児「うん、やってみる。」

翌日からC児は、母親が自転車をこいでいる傍らで走って登園してきた。

園でもC児は、A児に追いつけないながらも連日園庭のトラックを走っている。い

つの間にか、だんだん仲間が増えて来て一緒に走り始めるようになった。D児がバトンを2本持ってきて2チームの競争もできるようになった。時には、教師も加わってリレーを一緒に楽しんでいる。C児にも競争意欲がでてきて、C児が加わっているチームが勝つとチームの友達と手を取り合っで喜ぶ姿が見られるようになった。

○事例1に対する評価

(幼児理解、ねらいや内容の妥当性)

走ることが苦手なC児は、クラス対抗リレーで負けてばかりいることに引け目を感じている。そんな折、1位を目指そうとA児が中心になってクラスの皆に声をかけた。C児もA児のアドバイスを受けて練習を始める。練習を続けていくうちに徐々に走ることが楽しく、少しずつだが速く走れるようになっていく自分に自信が生まれている。

(環境構成、教師の援助、家庭との連携)

毎朝の園庭の掃除の際、トラックロープの整備をしたり、小石や危険物が落ちていないかを確認したりして、幼児たちが走りやすいように配慮している。また、一緒にリレーを楽しむことで幼児達の意欲を高めることにつながっている。

また、幼児が頑張っていることを家庭に伝えたり、家庭での取組の様子を聞き感謝の意を伝えたりするなど、家庭との連携を図り幼児の育ちを共有する。

(2) 事例2 優勝するために…(10月初旬)

A児やC児を含めたクラスの仲間がリレーの練習をしているのをB児は遠くから見ていることが多くなった。しかし、B児はなかなか入れない。

教師は、B児に「C君、頑張ってる練習してるね。B君はしないの。」と声をかける。

B児「どうせ、ビリだよ。練習なんかしたって…。」

教師「うーん、勝ちたいよね。どうしたらいいだろうね。そういえば、この間はバトンを落として、ビリになったんだよね。」

B児「そうか、バトンの練習をすればいいね。」

B児は皆のところへ駆けて行って声をかける。

B児「皆、バトンの練習もしようよ。この間、落としてビリになったよね。今度は、落とさないように練習しよう。」

A児「テレビでリレーを見たよ。右手の手のひらを上に向けてバトンをもらうんだ。右手で持ったまま走って、次の人に渡してたよ。止まらないで走りながら渡してたからすごく速かったよ。その練習をしてみればいいんじゃない。」

教師「じゃ、まず、みんなで縦に並んでバトンの受け渡しだけの練習をしてみる？」

B児「そうだね。みんな並ぼうよ。縦に1列だよ。秘密の特訓だね。」

A児「そうだね。何だか楽しくなってきたね。」

1列に並んで、バトンの受け渡しだけの練習が始められた。

A児「何回も練習したから、落とさないで渡せるようになってきたね。今度はトラッ



クを走ってみようか。」

その後のクラス対抗の練習では、クラスで輪になって、「エイエイオー」と気合を入れてから走った。練習の成果もあり、赤色チームが3位に、白チームが4位となって、クラスのリレーの練習に熱が入ってきた。走る順番もいろいろ替えて工夫してみるなど、子供達からの提案も取り入れて練習した。

運動会当日は2位と3位になり、クラス皆で手を取り合って喜び、教師も一緒にその喜びを分かち合った。

○事例2に対する評価

(幼児理解、ねらいや内容の妥当性)

B児は、当初、練習しても無理だと思い、練習に参加していなかった。しかし、A児とC児が練習している中に、クラスの仲間が練習に参加していく姿を遠目に見て、参加したい様子が見られたため教師が声をかけた。C児の頑張っている姿を認め、A児のリレーに勝ちたいという強い思いやクラスの仲間の後押しを感じて、一緒に頑張ろうという気持ちが芽生えている。

さらに、「バトンを落として、ビリになったんだよね」という教師の一言をヒントに、B児は「バトンの練習をしよう」と提案し、A児のアイデアも加わって、クラスの仲間が1つの目標に向かって諦めずにやり遂げようとする意欲が高まっている。練習の成果が結果につながったことで、やり遂げた充実感を味わうことができた。

(環境の構成、教師の援助・指導)

クラスの幼児たち全員が1つの目標に向けて繰り返し努力できるように、一人一人のリレーへの向き合い方を把握し、リレーの指導方法を図書館で調べたり、先輩教師に教えてもらったりして、適宜ふさわしい声かけや具体的なアドバイスができるように心掛けた。

7 評価を踏まえた指導計画の改善

(1) 短期の指導計画の改善

(ねらいや内容の妥当性)

運動会のクラス対抗リレーでの勝利に向けて、A児とC児の関わりを中心にクラスの仲間たちの団結力が強まり、A児のリーダー性、B児の意識の変容、C児の心身の向上などの成長が見られた。目標に向けて力を尽くしたことで、一定の成果を得ることができて、幼児たちに達成感が生まれた。

(環境の構成)

教師は、幼児が目標に向けて頑張ろうとしている過程でうまくいかない時に、幼児の表情や仕草、身体の動きから幼児の気持ちを読み取り、見通しがもてるように励ますなど、幼児の心に寄り添い支えることにより、幼児が自分の力でやり遂げることができるようにした。

教師は幼児に前向きな見通しをもたせるため、持ちやすいようなバトンを工夫したり、練習方法を工夫したりすることなども、幼児たちの話合いから進められるよう働きかけている。

(2) 長期の指導計画の改善

リレーを通して、競い合う気持ちを認めたり、引き出したりして、競い合う楽しさや面白さを感じられるようにしていく。また、チームでの競い合いを通して、自分の思いや考えを言葉で伝えたり、相手の話を聞いたりして言葉による伝え合いを楽しめるようにしたい。